

堺市コミュニティーソーシャルワーカー設置業務

平成 26 年度 地域福祉ねっとワーカー取り組み状況について

1. 事業目的・概要

関係機関・地域と連携し、個別支援、地域支援、ネットワーク支援の継続的な活動を行うことにより、堺市における地域福祉の向上を目的とする。

2. 事業の経過

平成 20 年度:CSW 配置検証 <堺あったかぬくもりプラン 2 策定>

平成 21 年度:CSW モデル配置 1区(堺区)【社協 1 名、在介 4 名】

平成 22 年度:CSW 設置事業 4 区(堺区・中区・東区・西区)【社協 4 名、在介 19 名】

平成 23 年度:CSW 設置事業 7 区(全区)【社協 7 名、在介 30 名】

平成 24 年度:CSW 設置事業 7 区(全区)【社協 7 名】 <地域包括支援センター再編>

平成 25 年度:CSW 設置事業 7 区(全区)【社協 7 名】 <新・堺あったかぬくもりプラン策定>

3. 平成 26 年度の事業進捗状況

人 員:社協各区事務所に1名 (計 7 名)

(1) プロジェクト (事業化・施策化) の状況

①「みんなを まもる もしものときの 見守りガイド」の発行・周知

※詳細については別紙参照

②「安心連絡グッズ (シート・カード)」の配布

昨年度に引き続き見守り活動者に非常に好評を得ている。見守り活動者が訪問時にその場でシート・カードへの情報記入を促すといった、関係性を構築するための工夫を行っている。

発行部数：安心連絡シート：24,000部、安心連絡カード：31,000部

③ゴミ屋敷対応プロジェクトの更新

関連する制度の変更により、その内容を更新し関係機関との共有化を図る。

④生活困窮者への支援 (事例の蓄積・分析、支援の仕組みの検討)

すてっぷ堺、民間組織と共に、協働による支援体制のあり方について協議。

⑤地域や関係機関との連携促進ツールの検討

一層の連携促進および新たな協働を育むためのCSW活動の周知ツールを年度内に作成予定。

⑥その他

府営住宅建て替え等による移転・引越し支援の検討 など。

(2) 地域支援・ネットワーク支援の状況 <主な活動例>

・お元気ですか情報交換会、校区ボランティアビューロー、校区民生委員会への参加

⇒ニーズキャッチ、フィードバック、課題提起、見守りガイドの周知 等

・高齢者関係機関会議、区自立支援協議会、子育て支援ネットワーク会議 等への参加

⇒各分野のネットワーク会議に参加し、ケース共有、地域課題検討、新規事業の展開 等を行う。

分野を超えたネットワークも構築され始めており、また住民を対象とした講座を行うなど新たな活動も展開され始めている。

- ・区レベルにおける地域活動の担い手交流会の主催

⇒地域活動の担い手と専門機関や警察等らが一同に地域課題について話し合う場の設定・開催。

(3) 個別支援の状況 (※平成26年4月～12月末に実践し、社協CSW連絡会にて共有されたもの)

	堺区	中区	東区	西区	南区	北区	美原区	合計
のべ活動件数	125	87	174	98	111	158	32	785
実件数	77	43	69	51	53	44	22	359
活動回数	346	233	506	287	453	153	64	2042
1件当たりの平均活動回数	4.49	5.42	7.33	5.62	8.55	3.48	2.91	5.69

※『のべ活動件数』は、実際に相談支援に動いた件数(ケース数)を月ごとに算出し、それを合算した数

※『活動回数』は、個別支援に関する活動・行動のみの数(地域支援、ネットワーク支援等は除く)

※『1件当たりの平均活動回数』は、『活動回数』を1回のみの相談の件数も含めた『実件数』で割った数

<特徴的な事例> 傾向：制度の狭間や社会的孤立・生活困窮に関する事例が多い。

・『ゴミ屋敷状態の住宅にすむ受診・支援を拒否する50歳代女性(糖尿病を罹患)への支援』

⇒平成24年度、専門機関からの相談により支援に。ゴミ屋敷状態にある住宅の問題や本人の言動により、近隣との関係が良くない中、CSWが本人に寄り添い、支援を続けてきた。

今年度、民生委員、校区福祉委員、近隣住民、関係機関と共に住宅の樹木の伐採活動につながる。直近では、本人依頼により近隣住民の手配により病院へ搬送。本人は、継続した治療や手術を希望しており、その他の支援も容認し始めている。退院、地域生活に向けて調整中。

・『公共料金滞納、介護保険料滞納によるサービス停止等状態にある高齢母と未就労である息子の2人暮らし世帯への支援』

⇒すてっぷ・堺や地域型包括支援センター等関係機関と連携し当該世帯の支援にあたる。

地域のいきいきサロン主催者らの理解と協力のもと、母親の居場所として定着。

息子への就労支援の結果、就労につながり、継続的な就労の定着支援を行うことで、収入が安定。母親の医療受診、介護保険利用が再開。

(4) その他

- ・生活困窮をテーマとした研修会の開催

4. 今年度の成果と次年度への課題

- ・地域関係者や各関係機関からCSWへの理解が積み上げられてきており、個別ケースだけでなくネットワークにおいても協働が進んでいる。

⇒CSW活動の周知ツールを活用し、既存のネットワーク強化、新たなネットワーク開発を行う。

⇒次年度以降は、各ネットワークにおいて一層の地域支援が展開できるよう、関係機関専門職等を対象とした地域福祉志向性を高めるための研修会を開催。

- ・CSWだけでなく、個別支援を展開する社協内各部署が連携してチームとして行うケースが多くなり、それぞれの役割のもと支援展開が図られるようになった。